

FutureNet FA-110

**セントラルマネージャ
ユーザーズガイド**

Version 2 . 0 0

CENTURY SYSTEMS

■ 商標について

- 「FutureNet」は、センチュリー・システムズ株式会社の登録商標です。
- 下記製品名等は米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
Microsoft、Windows、Windows 95、Windows 98、Windows NT4.0、
Windows 2000、Windows XP、Microsoft Internet、Explorer
- その他の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

■ ご注意

- (1) このマニュアルの作成にあたっては万全を期しておりますが、万一不審な点、記載漏れなどお気づきのことがありましたらお問い合わせ下さい。
- (2) 本製品を使用した事によるお客様の損害、逸失利益、または第三者のいかなる請求につきましても、上記の項目にかかわらず当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承下さい。
- (3) このマニュアルの著作権および「COM リダイレクター」に関する知的財産権は、センチュリー・システムズ株式会社に帰属します。
- (4) このマニュアルの内容の全部または一部を無断で転用、複製することはできません。
- (5) 本マニュアルの内容および外観は、改良のため将来予告なく変更することがあります。

目次

商標について 目次

第1章 はじめに.....	1
1.1 セントラルマネージャの概要.....	1
1.2 セキュリティとパスワードエディタ.....	3
1.3 制限事項.....	6
第2章 ライセンスについて.....	7
2.1 セントラルマネージャのライセンスについて.....	8
2.2 ライセンスキーの申請方法.....	9
2.3 ライセンスキーのインストール.....	10
2.4 ライセンスキーの変更について.....	10
第3章 セントラルマネージャの基本操作.....	11
3.1 インストール.....	12
3.2 セントラルマネージャの起動.....	12
3.3 セントラルマネージャの画面.....	13
第4章 セントラルマネージャの使い方.....	15
4.1 オートディスカバリー機能.....	16
4.2 資産管理機能.....	17
4.2.1 ノードリストの作成手順.....	17
4.2.2 ノードリストと現状との比較.....	19
4.3 一斉バージョンアップ.....	20
4.4 強制リスタート.....	21
4.5 設定内容の表示と変更.....	22
4.5.1 パスワードの設定.....	22
4.5.2 FA-110のセキュリティレベル.....	24
4.5.3 設定内容の表示と変更.....	27
4.5.4 設定内容の同時変更.....	28
4.6 Windows XPのファイアウォール設定.....	29

第1章

はじめに

1.1 セントラルマネージャの概要

FutureNet セントラル・マネージャは複数の FA-110 を集中管理する機能を持つ管理ツールです。次のような画面を持ちます。

画面表示領域の 1 行がネットワークに接続されている各 FA-110 に相当します。セントラルマネージャは以下のような機能を持ちます。

オートディスカバー機能

ブロードキャストを使ってそのネットワークに接続されているすべての FA-110 を自動検出し、その結果を画面にリストします。

資産管理機能

あらかじめ登録しておいた FA-110 の情報とネットワークでの検出結果の比較します。新しく追加された装置や応答のない装置、登録情報と異なるアドレスを持つ装置が検出できます。

一斉バージョンアップ機能

画面で選択した複数の FA-110 を同時にバージョンアップすることができます。

装置を指定して個別にバージョンアップすることもできます。

指定ノードの強制リスタート

何らかの異常で通信ができなくなったような場合、画面で選択した複数の FA-110 を強制的にリスタートすることができます。

指定ノードの詳細情報表示 / 変更

指定した装置の設定内容の表示や設定のファイルへの保存がおこなえます。また、画面で選択した複数の FA-110 に特定の設定項目を同時に転送することができます。また、画面で選択した複数の FA-110 の設定内容を同時に変更することができます。

これにより、ネットワーク上にたくさんの FA-110 が接続されていても一ヶ所から設定内容やバージョンの制御がおこなえます。

1.2 セキュリティとパスワードエディタ

セントラルマネージャを使うと同じネットワークに接続されたすべての FA-110 の設定を一ヶ所で変更できます。これは便利な機能ですが、セキュリティには十分な配慮が必要です。

FA-110 はデフォルトでは次の設定になっています。

(telnet の設定メニュー” TOP 10) Remote Administration”の項目)

- 1) Remote Administration - enable
- 2) Read configuration permission - check password
- 3) Write configuration permission - check password

これは『セントラルマネージャからの接続を許し、設定値の読み出しおよび書き込みのときは、セントラルマネージャが正しいパスワードを知っているかどうかをチェックする』ことを意味します。

ひとつずつ見ていきましょう。1)は FA-110 がセントラルマネージャからの接続を許すかどうかを指定する項目です。これは 許す / 許さないの二者択一です。

2)はセントラルマネージャからの接続を許すときに、設定内容の読み取りを許すかどうかを指定する項目です。以下の中から選ぶことができます。

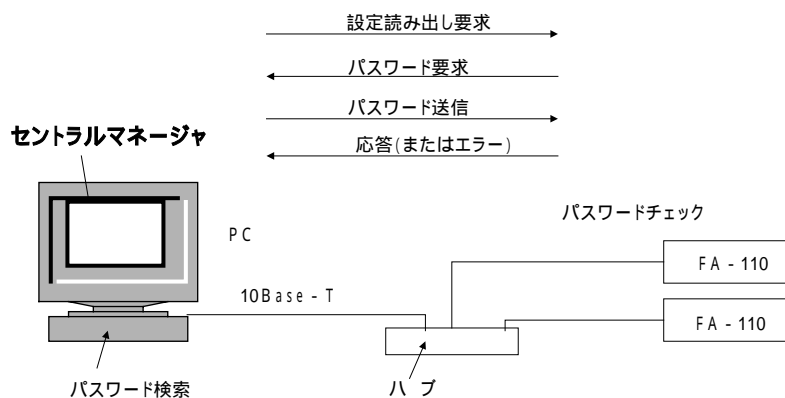
- A) Check Password
- B) Disable
- C) Enable

ここで、A)を選択するとセントラルマネージャからの読み出し要求に対し、パスワードを要求します。これは telnet や WEB ブラウザを使って設定をおこなうときに使用するのと同じ本体パスワードです。セントラルマネージャにその FA-110 の正しいパスワードが登録されていれば、読み出しは成功します。パスワードが正しくない場合はセントラルマネージャ側には何も表示されません。B)の Disable を選ぶとパスワードに関係なく読み出し要求を無視します。

C)の Enable を選ぶとパスワードのチェックをしないで読み出し要求に応えます。

3)はセントラルマネージャからの接続を許すときに、設定内容の変更を許すかどうかを指定する項目です。このとき選択できるオプションも読み出しの場合と同じです。なお、とくに書き込みについては C) Enable にしておく、セントラルマネージャを起動したすべての PC から設定内容が書き換えられることとなりますから、極力使わないようにして下さい。通常は A) Check Password の設定にしておかれることを強く推奨します。

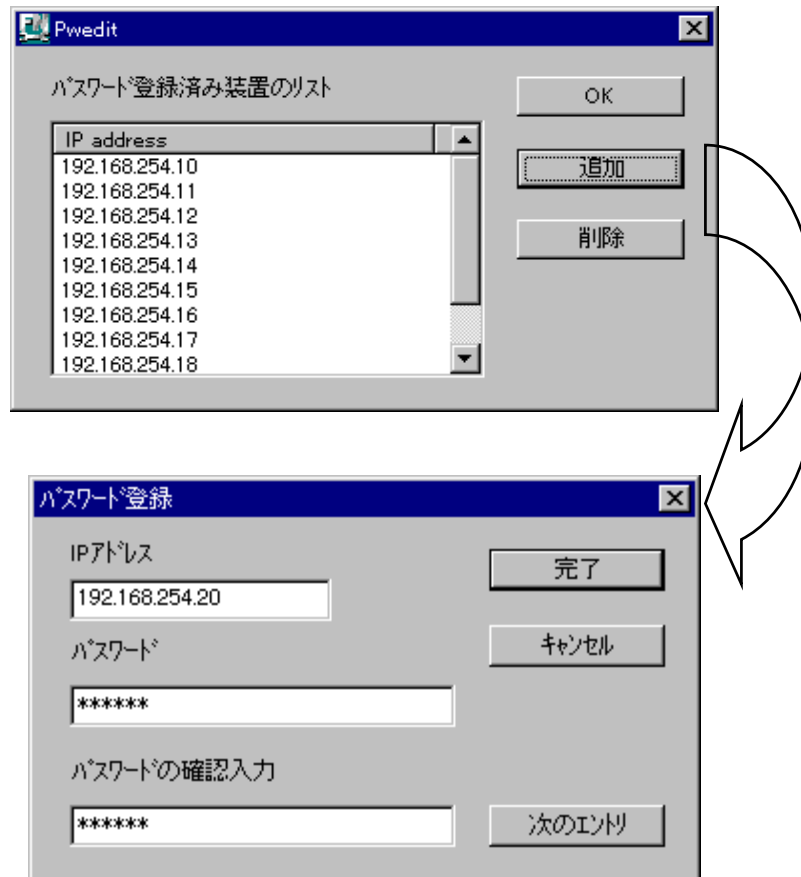
FA-110 はセントラルマネージャから設定内容の読み出しまたは書き込みの要求が来るたびに、パスワードを要求します。セントラルマネージャは各 FA-110 に登録されているパスワードを送ります。FA-110 側でそのパスワードが確認できれば要求に応えます。パスワードが違っている場合はエラーになります。



のセッションでネットワーク上を流れるFA-110のパスワードは暗号化されています。

《図 パスワードチェックによるセキュリティの維持》

セントラルマネージャ側では『FutureNet PWEdit』という専用のツールを使って、各 FA-110 の IP アドレスとそのパスワードの登録・削除をおこないます。



登録したパスワード情報は独自形式のひとつのパスワードファイルとしてファイルに保存されます。このファイルは暗号化されているため、ファイルの内容を直接テキストエディタ等で見ることはできません。また、このツールを起動しても登録したパスワードの文字列を見ることはできません。パスワードを忘れた場合は設定ができませんので注意して下さい。

セントラルマネージャの運用にあたっては以下の点に注意して下さい。

- ・パスワードファイルを共有フォルダに置かない。
- ・セントラルマネージャはセキュリティの高いPCシステムにインストールする。
- ・パスワードチェックをしないで設定変更を許す設定は極力使わない。

なお、ネットワーク上のFA-110を検索して、IPアドレスやモード、モデル名などをGUI上に表示する際にはパスワードのチェックは行ないません。

1.3 制限事項

- (1) セントラルマネージャはネットワーク上のFA-110を検出するのにブロードキャストを使用します。したがって、ブロードキャストが届かないネットワーク上のFA-110は検出できません。
- (2) 製品に標準で添付されるのは“スタンダード版”となります。スタンダード版には管理できる台数が10台までという制限があります。11台以上のFA-110を管理したい場合は“エンタープライズ版”用のライセンスが必要です。入手方法については2章を参照下さい。

第2章

ライセンスについて

2.1 セントラルマネージャのライセンスについて

製品に標準で添付されているセントラルマネージャ スタンダード版には監視対象が 10 ノードまでという制限があります。それ以上の台数をサポートする場合は別途 “エンタープライズ版” のライセンスキーが必要です。スタンダード版とエンタープライズ版は、台数の制限を除けば機能に違いはありません。

弊社が発行する “エンタープライズ版” ライセンスキーを設定すると 管理対象の台数を増やすことができます。ライセンスキーを登録したセントラルマネージャは特定の PC でしか使用できません。この制限は FA-110 の設定内容を保護する意味でも重要です。起動できる PC を限定することにより、多数の FA-110 が接続されているネットワークで誰もが自由にセントラルマネージャを起動し、設定内容を変更することを防ぐことができます。

なお、FA-110 はセントラルマネージャによる制御を受けなくする設定も可能です。10 台以下の台数でもセントラルマネージャによる管理を避けたい場合は、その設定をおこなってください。具体的な方法については本書の「1.2 セントラルマネージャのセキュリティ」を参照下さい。

2.2 ライセンスキーの申請方法

ライセンスキーの申請にあたっては所定の「ライセンス注文書兼申請書」に必要事項をご記入頂きます。

■ ご準備いただく情報

申請には以下の情報が必要です。

- セントラルマネージャをインストールする PC の
MAC アドレス (イーサネットアドレス)
- 管理対象の FA-110 の台数
- 申請者の会社名、所属、担当者の氏名、ご連絡先

■ ライセンスの取得手順

- (1) ライセンス注文書 / 申請書を入手する
FAX または弊社ホームページより入手して下さい。
- (2) ライセンス注文書 / 申請書に記入して、弊社宛てに送る
FAX またはご郵送下さい。
- (3) ライセンスキーを受け取る
- (4) ライセンスキーをインストールする

価格等、詳細については弊社ホームページをご覧頂くか、営業部までお問い合わせ下さい。

2.3 ライセンスキーのインストール

受け取ったライセンスキーはセントラルマネージャを起動した後、「認証(A)」メニューの「ライセンスキーの登録」ダイアログから入力することができます。

登録が成功すると、セントラルマネージャ画面の最下行に正しいライセンス数が表示されますので、ご確認下さい。

2.4 ライセンスキーの変更について

- ・インストール先のPCのネットワークカードが変わる場合は変更の申請が必要です。なお、変更状況は弊社で記録致します。
- ・所定の「ライセンス変更申請書」に必要事項をご記入いただき、弊社まで送付下さい。

セントラルマネージャを同じネットワークカードを持つ別のPCにインストールする場合は、同じライセンスキーを再度設定して下さい。再申請は必要ありません。

第3章

セントラルマネージャの基本操作

3.1 インストール

「FutureNet セントラルマネージャ」は製品に同梱される CD-ROM に含まれます。セントラルマネージャを動作させるには次の動作条件が必要です。

OS: Windows95/98/Me/NT/2000/XP
メモリ： 32MB 以上
ディスク： 5 MB 以上の空き領域

次の手順でインストールできます。

- (1) CD-ROM をセットし、エクスプローラから [Software] [fncmgr] のフォルダを開いて下さい。
- (2) "setup.exe" ファイルをダブルクリックしてインストーラを起動して下さい。
- (3) 画面の指示に従ってインストールをすすめて下さい。
- (4) インストーラが終了すればインストール作業は完了です。

3.2 セントラルマネージャの起動

セントラルマネージャはデフォルトでは次のフォルダにインストールされます。

C:\Program Files\Century Systems\FutureNet Central Manager

このフォルダにある fncm.exe がセントラルマネージャの実行ファイルです。また、同じフォルダの pwedit.exe が各 FA-110 のパスワードを登録するためのパスワードエディタです。

セントラルマネージャを起動するには fncm.exe ファイルのアイコンをダブルクリックするか、そのショートカットをダブルクリックして下さい。

3.3 セントラルマネージャの画面

セントラルマネージャの典型的な画面は次のようなものです。

・再検出

ブロードキャストをおこなってネットワーク上のFA-110を自動検出します。

・ダウンロード実行

選択したノード (FA-110) に、選択済みのダウンロードファイル (ファームウェア) をダウンロードしす。

ダウンロードファイルの選択

FA-110 にダウンロードするファイル(ファームウェア)を選択します。

リスタート実行

選択したノードをリセット (=再起動) します。

ノードリストを開く

ノードリストファイルを読み込み、検出を実行します。

ノードリストに保存

ファイル名を指定して現在の検出結果をノードリストファイル(テキストファイル)に保存します。

設定内容の取得

選択したノードの詳細情報(テキストファイル)を取得し、指定したファイルに保存します。

設定実行

選択したノードに詳細情報を

ヘルプ

セントラルマネージャのバージョンを表示します。

・ビューエリア

ビューエリアには”検出”を実行したときの状態が表示されます。

各フィールドの幅は自由に変更できます。また、フィールド名をクリックするとその項目で表示順序の並べ替えができます。ビューエリアの左端のアイコンは検出された FA-110 の状態を表します。

第4章

セントラルマネージャの使い方

4.1 オートディスカバー機能

ブロードキャストを使ってそのネットワークに接続されているすべての FA-110 を自動検出し、その結果を画面にリストします。

(1) プログラムを起動

セントラルマネージャを起動すると自動的にブロードキャストがおこなわれます。このときステータスアイコンはすべてグリーンのアイコンになります。

(2) 再検出の実行

「再検出」ボタンを押すと再度ブロードキャストをおこない、各ノードの状態を取得し、View エリアに表示します。View エリアの下側のフレームに応答のあった FA-110 の台数が表示されます（アクティブなノード数）。

表示結果は各フィールド名をクリックすることによって昇順または降順に並べ替えることができます。また、各フィールドの表示幅は画面上でマウスを使って調整できます。

4.2 資産管理機能

セントラルマネージャではネットワーク内の本装置の ID 番号 (MAC アドレス) や機種名といった資産情報を記録、チェックするための基準となるファイルを作成することができます。このファイルを " ノードリスト " と呼びます。

ノードリストを使うと以下のことが可能になります。

- ・各装置にわかりやすい名前をつける
- ・登録している情報と現状とが一致しているかどうかをチェックする
- ・新しくネットワークに追加したものを検出する
- ・故障などにより応答のなくなった装置を検出する

4.2.1 ノードリストの作成手順

最初にノードリストを作成する場合は、次の手順でおこないます。

- (1) ネットワークに FA-110 を接続し、電源を入れる
- (2) セントラルマネージャを起動する

このときステータスアイコンはすべて緑色のアイコンになります。

- (3) ツールバーの「ノードリストとして保存」ボタンをクリックする

ここでファイル選択ダイアログからノードリストファイルの名前を指定します。名前や拡張子の付け方に制限はありません。ファイル名を決めて保存を実行すると、View エリアに表示された内容が指定したファイルに保存されます。

- (4) ノードリストを編集する

保存したノードリストファイルを任意のエディタで編集し、ノード名など必要な情報を登録します。接続予定の装置のエントリなどを新しく追加することもできます。

ノードリストは次のような形式を持ちます。

【ノードリストの形式】

MAC アドレス モデル名 バージョン番号 IP アドレス [ノード名]

このうちノード名以外はノードリスト保存時に自動的に生成されます。ノード名には日本語を含めて自由な名前、コメントを書くことができます。

なお、ノードリストの“#”ではじまる行はコメントです。セントラルマネージャの動作には影響しません。

ノードリストの例：

```
# Century Systems Inc.  
# FutureNet Central Manager 2.00  
# Nodelist file  
# 01.13.2005 10:55:12  
# MAC Address | Model | Version | IP Address | Nodename  
00806D3B0007 FA-21 2.00 192.168.254.031 PLC テスト  
00806D3B0001 FA-21 2.00 192.168.254.032 無停電電源装置  
00806D3B0006 FA-11 2.00 192.168.254.033 リフトアクセスサーバ  
00806D3B0002 FA-21 2.00 192.168.254.034 3階 リモートルータ  
00806D3B0003 FA-21 2.00 192.168.254.035 監視カメラの制御
```

4.2.2 ノードリストと現状との比較

ノードリストは本装置の管理台帳として利用することができます。ツールバーから「ノードリストを開く」のボタンをクリックすると台帳と実際との比較をおこなうことができます。

- (1) 「ノードリストを開く」ボタンをクリックする
- (2) ファイル選択用のダイアログからノードリストファイルを選択する

ここでファイル選択ダイアログからノードリストファイルを選択し、OK ボタンを押すとノードリストが読み込まれます。読み込みが完了すると、自動的に再検出がおこなわれます。これにより、ノードリストの内容と検出結果が比較され、その結果が左端にアイコンで表示されます。

ここで View エリアの左端に表示されるアイコンの意味は次のとおりです。

(青 = Good)

ノードリストに登録済みで、かつ応答がありました。

(緑 = New)

ノードリストに登録がなく、かつ応答がありました。
新しく追加されたノードです。

(赤 = No response)

ノードリストに登録済みですが、応答がありませんでした。
ダウンしているか、ネットワークから外されています。

(黄 = Changed)

IP アドレスはノードリストに登録済みですが、検出された MAC アドレスが異なります。入れ替えられた可能性があります。

4.3 一斉バージョンアップ

画面で選択した複数の FA-110 を同時にバージョンアップすることができます。View エリアに表示されているアクティブなノードからバージョンアップしたいノードを選択し（複数選択可能）、同時にバージョンアップをおこなうことができます。次の手順でおこないます。

(1) ダウンロードファイルを選択する

セントラルマネージャの「ダウンロードファイルの選択」ボタンを押すとファイル選択のためのダイアログが開きます。ここから新しいファームウェアのファイルを選びます。新しいファームウェアは通常弊社のホームページで提供されます。

(2) View エリアからバージョンアップ対象ノードを選ぶ

View エリアからバージョンアップ対象のノードをマウスの左クリックで選びます。シフトキーやコントロールキーを同時に押すことによって複数のノードを同時に選択できます。

(3) ダウンロードを実行する

セントラルマネージャの「ダウンロード実行」ボタンを押すと、各 FA-110 がダウンロードモードに移行し、ダウンロードが開始します。ダウンロードが完了すると各 FA-110 は自動的にリスタートします。

4.4 強制リスタート

画面で選択した複数の FA-110 を同時にリスタートをかけることができます。例えば FA-110 をサーバ、ホストコンピュータをクライアントとして使用しているとき、ホストコンピュータ側が異常終了することがあります。この場合、FA-110 側はセッションが切れたのか、データが来ないだけなのかを判断することができないため、セッションを張ったままの状態になります。

この後、ホストコンピュータが復旧して再度セッションを張ろうとしますが、このとき FA-110 側では以前に張ったセッションが残っているために、この再接続を受け付けることができません。これはいわゆる「ハーフオープン」と言われる状態です。このような状態からぬけるには FA-110 側をリスタートして強制的にセッションを切らなければなりません。この“強制リスタート”機能を使えば複数台同時に、しかもリモートでおこなえます。

リスタートをおこなう場合は、まず View エリアでリスタートしたい FA-110 を選択します。その状態で「リスタート実行」（紫のアイコン）を押すと、そのノードをリスタートすることができます。なお、リスタートは製品の電源を入れ直したのと同様の動作になります。

4.5 設定内容の表示と変更

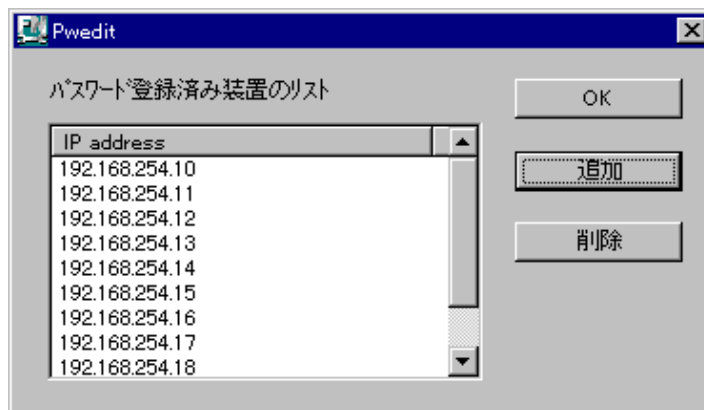
指定した装置の設定内容の表示や設定のファイルへの保存がおこなえます。
また、画面で選択した複数の FA-110 の設定内容を同時に変更することができます。

4.5.1 パスワードの設定

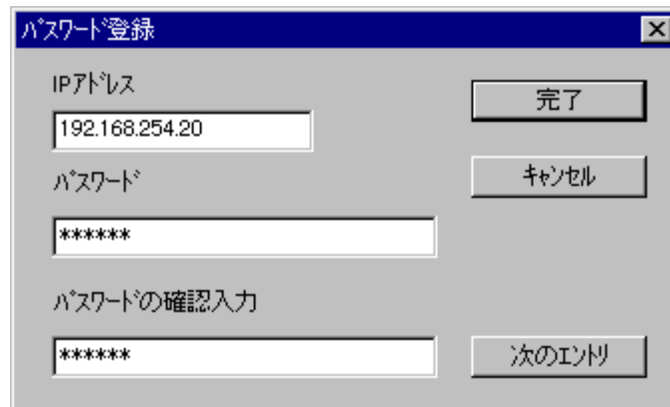
現在の FA-110 はパスワード工場出荷時にはセントラルマネージャでの設定内容の表示や変更は、パスワードを設定していないとできないようになっています。これは権限のないユーザがセントラルマネージャを使って不正に設定変更をおこなえないようにするというセキュリティ上の理由によります。

FA-110 のパスワードは添付の「PWEdit」によっておこないます。次の手順で各 FA-110 のパスワードを登録して下さい。

(1) PWEdit を起動します。



(2) PWEdit の追加ボタンをクリックして、パスワード追加ダイアログを開きます。



- (3) FA-110 の IP アドレスを指定します。

パスワード登録の対象となる FA-110 の IP アドレスを指定します。

- (4) FA-110 のパスワードを登録します。

FA-110 に既に設定されている本体パスワードを調べて、そのパスワードを入力して下さい。

- (5) 確認のため、再度同じパスワードを入力します。

- (6) 2 台以上あるときは[次のエントリ]ボタンをクリックして次のパスワードを登録します。

- (7) 管理対象の台数分、上記(3)～(6)を繰り返します。

- (8) すべてのパスワードの登録が終わったら[完了]ボタンをクリックして下さい。

- (9) PWEdit を終了します。

4.5.2 FA-110 のセキュリティレベル

FA-110 はセントラルマネージャによる設定の表示や変更を許すかどうかは次の3つのレベルで設定できます。

1. 表示・変更とも許さない。
2. 正しいパスワードが送られてきたら表示・設定を許す。
3. いつでも表示・変更を許す。

これらは表示と設定変更のそれぞれに設定できます。

セキュリティレベルを変更する場合は以下の手順でおこなってください。

(1) FA-110 に telnet でログインする

```
> telnet 192.168.25.410
```

```
# FutureNet FA-110 Version 2.00 #
```

```
password :
```

```
Ethernet address : 00806D3B0003
```

- 1) General
- 2) Service Type: COM redirect mode
- 3) Service Settings
- 4) Status
- 5) Command Line
- 6) Exit Enter number

(2) General メニューを開く

```
General
```

- 1) Password - *****
- 2) TCP/IP
- 3) Ethernet Physical I/F
- 4) RS Port
- 5) SMTP Configuration Server
- 6) LOG Messages

- 7) Start up
 - 8) Ethernet LINK Monitor
 - 9) Telnet/FTP Inactivity Timer - 300 (sec)
 - 10) Remote Administration
- Enter number

(3) Remote Administration メニューを開く

General

- 1) Password - *****
 - 2) TCP/IP
 - 3) Ethernet Physical I/F
 - 4) RS Port
 - 5) SMTP Configuration Server
 - 6) LOG Messages
 - 7) Start up
 - 8) Ethernet LINK Monitor
 - 9) Telnet/FTP Inactivity Timer - 300 (sec)
 - 10) Remote Administration
- Enter number 10

- 1) Remote Administration - enable
- 2) Read configuration permission - disable
- 3) Write configuration permission - disable

Remote Administration を enable にすると 2)、3) の設定が有効になります。
セントラルマネージャによる管理をされたくない場合は disable にして下さい。

(4) 設定の読み出しのセキュリティ設定の変更

- 1) Remote Administration - enable
 - 2) Read configuration permission - disable
 - 3) Write configuration permission - disable
- Enter number

Enter number 2

- 1) Disable <<< 設定内容の表示を許しません。
 - 2) Check password <<< パスワードを知っていれば許します。
 - 3) Enable <<< 無条件で表示を許します。
- Enter Number <<< 上記のいずれかを選択して下さい。

(5) 設定の書き込みのセキュリティの変更

- 1) Remote Administration - enable
- 2) Read configuration permission - disable
- 3) Write configuration permission - disable

Enter number 3

- 1) Disable <<< 設定変更を許しません。
 - 2) Check password <<< パスワードを知っていれば許します。
 - 3) Enable <<< 無条件で設定変更を許します。
- Enter Number <<< 上記のいずれかを選択して下さい。

(6) 変更後、Save & Restart を実行します。

Ethernet address : 00806D3B0003

- 1) General
- 2) Service Type: COM redirect mode
- 3) Service Settings
- 4) Status
- 5) Command Line
- 6) Exit

Enter number 6

- 1) Quit
- 2) Save configuration & Restart

Enter number 2

Please Wait

Set up complete !

4.5.3 設定内容の表示と変更

各装置の設定内容を画面上で確認できます。設定内容を表示するには、表示したい装置の行を左クリックで選択し、右ボタンを押して下さい。ここで“All”を選びます。なお、対象となる FA-110 側がパスワードをチェックする設定になっている場合は、あらかじめ“認証”メニューから“パスワードファイルの選択”を選び、ここで「PWEdit」でパスワード登録をおこなったファイルを指定しておきます。登録したパスワードが正しければ、ダイアログが開き指定した装置の設定内容が表示されます。

対象機器側の Remote Administration 設定で書き込みを許可していれば、設定情報を表示しているダイアログから設定内容の変更もできます。



4.5.4 設定内容の同時変更

View エリアで選択した複数の FA-110 の設定内容を同時に変更することができます。これは次のような手順でおこないます。

- (1) 実行したいコマンド列を含むファイルを作成します。
このファイルを作成する最も効率的な方法は、View エリアに表示されている FA-110 の中からテンプレートとなる FA-110 を選び、左ボタンをクリックして選択状態にします。
- (2) この状態でツールバーの「設定内容の取得」ボタンを押し、コマンド列を保存する先のファイルを選択します。選択するとダイアログが開き、内容が確認できます。問題がなければ「OK」をクリックして下さい。
- (3) 必要であれば保存したファイルをメモ帳などのエディタで修正します。
- (4) View エリアから設定を変更したい FA-110 を選択します。
マウスの左ボタンをキーボードのコントロールキーまたはシフトキーと同時に押すと複数の FA-110 が選択できます。
- (5) この状態でツールバーから「設定実行」ボタンを押しして設定が保存されているファイル名を指定します。

以上の操作で設定内容の変更がおこなえます。

なお、変更が失敗した場合はセントラルマネージャの View エラーのステータス部分にエラーメッセージが表示されるので、この情報を参考に対応して下さい。

4.6 Windows XP のファイアウォール設定

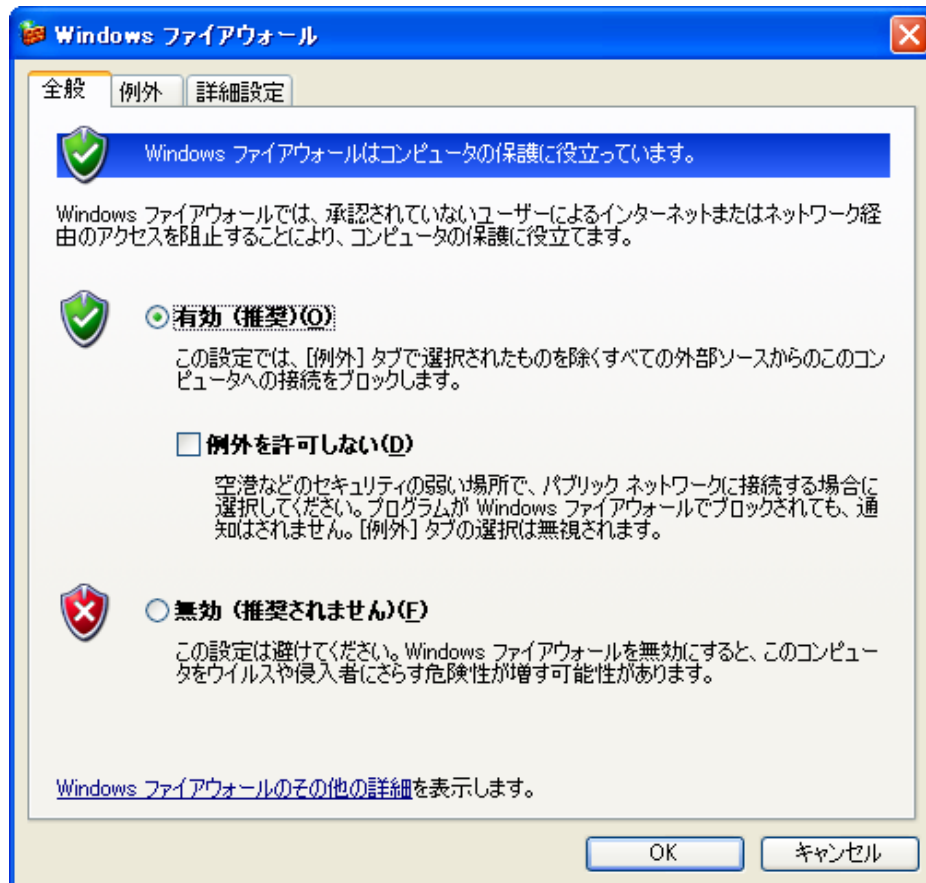
Windows XP Service Pack 2 (SP2) では、Windows ファイアウォールがデフォルトで有効に設定されています。そのため、そのままではセントラルマネージャが利用できません。Windows XP SP2 で利用するにはファイアウォールを解除するか、もしくは以下の方法でファイアウォールにセントラルマネージャで利用するための設定を追加する必要があります。

Windows XP SP2 のファイアウォールの設定はコントロールパネルからおこなえます。

- (1) コントロールパネルを開きます。



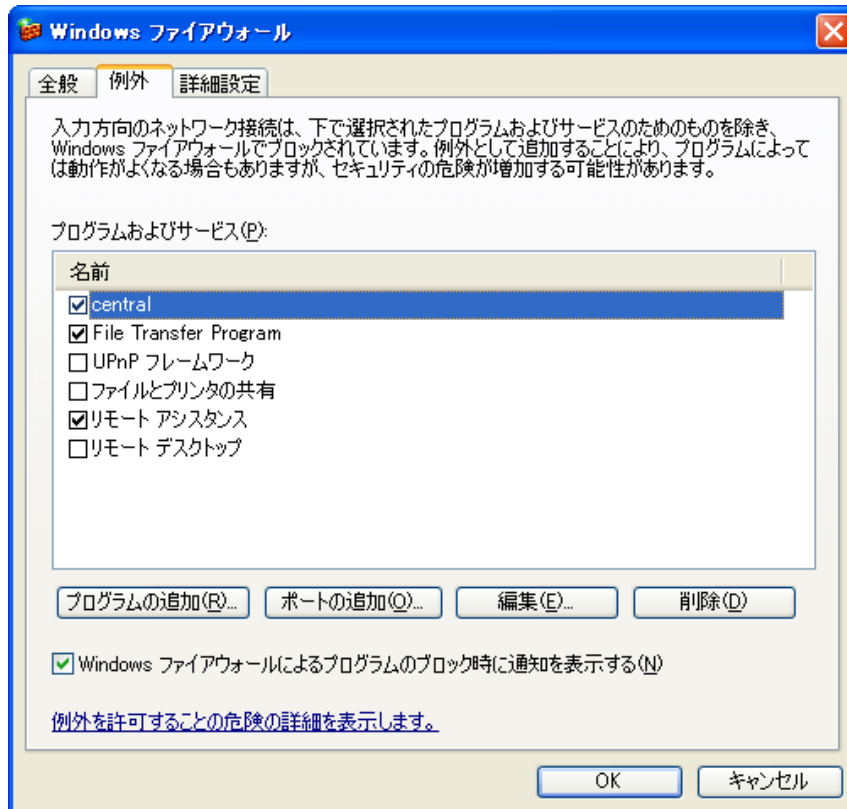
- (2) コントロールパネルから “ Windows ファイアウォール “ を選び、ダブルクリックします。



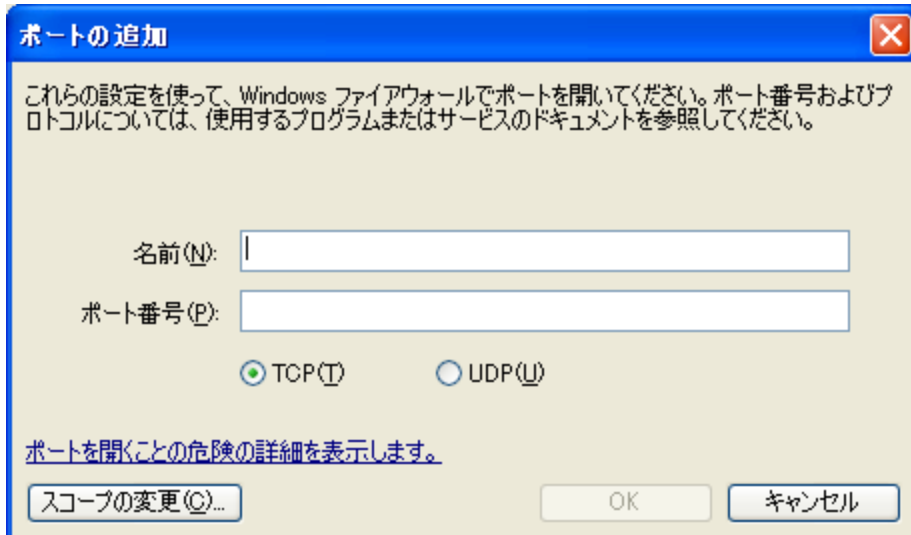
ファイアウォール機能全体を無効にする場合はこの画面で“無効”を選んで、OK をクリックして下さい。この場合必要な設定はこれだけです。

(3) Windows ファイアウォール設定画面から “例外” タブを選びます。

この画面の “プログラムの追加(R)...” をクリックします。



(4) ファイアウォールの例外ポートの設定画面が開きます。



ポートの追加

これらの設定を使って、Windows ファイアウォールでポートを開いてください。ポート番号およびプロトコルについては、使用するプログラムまたはサービスのドキュメントを参照してください。

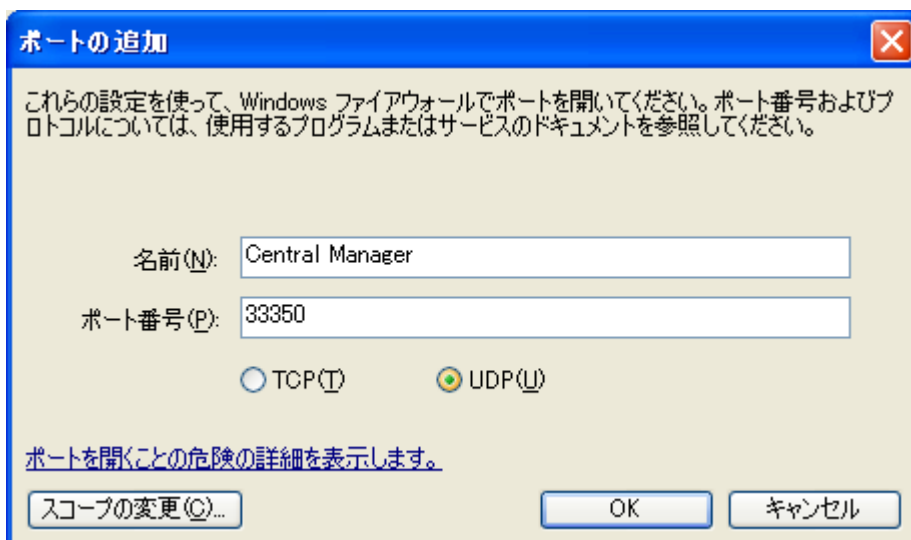
名前(N):

ポート番号(P):

TCP(T) UDP(U)

[ポートを開くことの危険の詳細を表示します。](#)

ここで UDP のポート番号 “ 33350 ” を通すように設定します。



ポートの追加

これらの設定を使って、Windows ファイアウォールでポートを開いてください。ポート番号およびプロトコルについては、使用するプログラムまたはサービスのドキュメントを参照してください。

名前(N):

ポート番号(P):

TCP(T) UDP(U)

[ポートを開くことの危険の詳細を表示します。](#)

以上で、Windows XP SP2 でファイアウォール機能を有効にした状態でセントラルマネージャが利用できるようになります。

FutureNet セントラルマネージャ ユーザーズガイド

2005年 4月 20日第1版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

Copyright(c) Century Systems Inc. 2005

東京都 武蔵野市 境 1-15-14 穴戸ビル 〒180-0022
Tel. 0422-37-8911 Fax. 0422-55-3373
<http://www.centurysys.co.jp/>